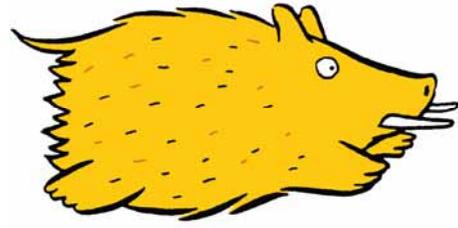




あなトマン隊じゃあ無いのか



入江町2編

by うさお

新子安にはいささか薄気味悪い教会があります。普通の家にこのような十字架を捧げた人型が立っています。妙に主売るです。あっ、違った。シュウルです。坂の下から車で上がってくると、判ってはいるんですがドキッとします。

そしてこの看板も何か意味がありそうで、ダビンチ・コードのようです。マッチの軸のような十字架、風前の灯のようなロウソク…。



さて、お正月に母は一宮さんにお参りに行きました。90歳を越す高齢ですが一人で行って来ました。健康であると言うことは有難いことです。その一宮さんですが、由緒のあるお宮さんであることは以前に述べました。門の右手に凱旋記念碑や戦没者慰霊碑があります。普通に亡くなった方は仏様に、戦争で亡く

なった方は、神様になるのかな。

そしてその脇になにやら小さなお社が……。更にその脇には長屋のようなお社が…。

さて？ここに祭られていたのは、  
すさのう 素蓋鳴尊、ことしろぬし 事代主命、うけもちの 保食命、おもだるかしこね 面足惶根命、みずはやひめ 水速迺売命なので、その神様のためのアパートなのか？





それにこの封印された石碑は何だ。謎は謎を呼ぶぞ。

ともかくも本殿に二礼二拍一礼をして参道に掛かると、ここはごらん通りの急な坂道になっています。この参道の脇はお祭りの時などのご縁日には、夜店が立ち並んで相当の賑わいを見せます。

でも、年寄りには無理だね。私達ゃあ降りるだけだから、良いんだけどね。



色々な石碑や、これは何でしょう？富士山の浅間神社のミニチュアでしょうか。溶岩の固まりが置かれています。上から滝が落ちてくる仕掛けです。水は枯れていましたけどね。



この石碑は由緒のあるものかと思いましたが、どうやら昔の漁師さん達の祈願のものらしかったです。

子安の浜も生麦と同様に漁師町として栄えた所です。しかし昭和 30 年台にコンビナートの台頭と共に消えていきました。

今は釣り船屋さんが残るのみです。



その一宮さんの裏手に回ると大きな門構えの豪邸があり、何かこの地域にそぐわないので、不審に思った Cacco が塀中を覗き込んで写真を撮っちゃいました。神社さんの持ち物かと思いましたが違うようです。昔の網元さんでもあるのでしょうか。



これが内部です。Cacco は「廃墟だ！廃墟だ！」って言ってましたが、中で電灯が点いているってことは人が住んでいるってことじゃあ…。

このお宅、吉田長作さんってお家だったと思う。Internet で探ってみたがなんの記述もありませんでした。



この前の通りをほんの数歩歩くと、入江川の岸边に着きます。水位が高くて水が濁み昏い水の色をしています。怖いなあ。子供の頃からこの辺りを歩くと、江戸川乱歩の小説の世界、というよりはそこに描かれていた挿絵のおどろおどろしさを目の当たりに感じていました。



鉄橋の下を潜り抜けると、子安の浜。かつてはね。

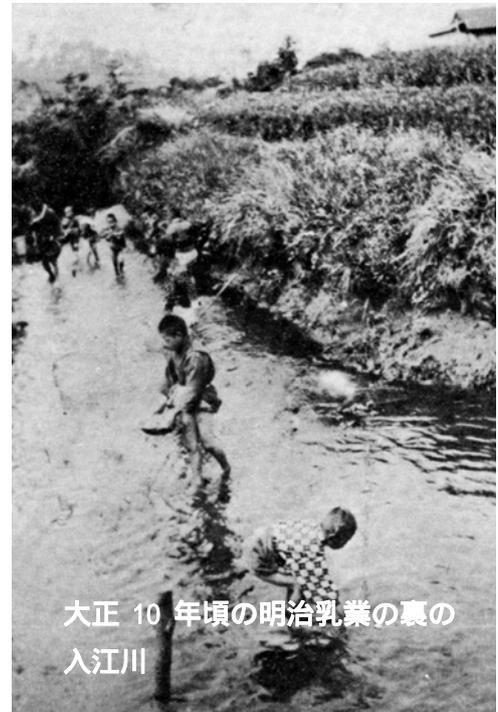
今は入江川運河に続く殺風景なところですよ。



でもこんな処にも江戸時代か明治の時代の道祖神的な石仏が並んでいます。時代を感じるなあ。



もう少し歩を進めて見ましょう。少し戻って入江川を渡ると、そこは明治乳業の配送所です。裏手はこんな感じ。



大正 10 年頃の明治乳業の裏の入江川

この辺りの川岸は、水の色や潮の匂いが如何にも海が近いことを教えてくれます。河岸と表記するほうが相応しいなあ。



くねくねと入り組んだ仕舞屋を通り抜けると、横浜線の暗渠が見えてきます。暗渠も小さいながらもトンネルです。良いんじゃないのって、想いを残しながら更に行くと大安寺に辿り着きます。



このお寺さんは漁師町にあって、大いに栄えたようですが、東海道線や近在線の整備に伴い土地は切り取られ、お寺さんに行くアクセス道路も狭い昔ながらのものです。



写真は、大正10年のもの。まだ周辺は広々しています。現在は狭い敷地を工夫して数々の宿坊とか不動堂とかが建てられていました。



大安寺さんのポスト

その中で目を引いたのが、これ、郵便ポストです。これ、見たことあります。由佳ちゃんちで。

プロパンガスのボンベの再利用で郵便ポストを・・・やはり地球の資源は限りのあるもの。お寺さんはやはり地球環境を深く考えているのかなあ。



由佳ちゃんちのポスト



今回のおさらい、場所はどの辺だったのか？上の図でご確認ください。



さて、お正月ですのでお目出度く七福神を巡ってきましたのでお伝えしておきましょう。場所は横浜七福神と呼ばれる処です。これが全部を廻ってきた御朱印帖です。全てご住職たちの直筆です。

さすがに手馴れているというか、見事な墨蹟の書でございます。



## 1. 菊名池弁財天：弁財天

まずは菊名池の畔にある見落としそうな祠にお参りです。ここは昔あった菊名池を半分潰して市営のプールにしちゃいました。そのプールの裏手に菊名池弁財天社があります。明治41年に日蓮宗の妙仙寺がこの地にあった蓮長寺と合併し「妙蓮寺」となった時に、日体上人がこの弁財天の霊夢に導かれたとのこと。この祠は千年以上の歴史を持っているらしいが、創建は不明らしい。ご本尊は市杵島姫命で一般的な琵琶を持った優美な姿ではなく、右手に剣を、左手に宝玉を持っています。文献によれば<sup>1</sup>、剣は、魔を払い、交通安全・家内安全をあらわし、宝玉は招福の玉として、財宝授与・商売繁盛の守護神になっているのだとか。何しろ人が居ないので近くの瀬戸物屋「みどりや」さんへ。ここで御朱印帖を手に入れお参りを開始しました。

まずは記念写真から……。  
(ぶっくらとしたうさおが嫌！)



剣を持ったお姿がこちら。美しい女人には険があるって？

文献1：横浜七福神 永井恒男著

実は鶴見にも浜七福神と言うのが在ったらしいのだが、漁師浜が無くなっちゃたんで自然消滅です。





## 2. 菊名山 蓮勝寺:浄土宗 毘沙門天

続いて菊名駅からの急な坂の途中にある蓮勝寺に行きました。鎌倉時代に蓮勝上人によって開かれた名刹です。

菊名という地名は蓮勝上人が鎌倉から赴いたときに夕日の中に野菊が咲き誇り富士山とあいまってあたたかも極楽浄土のよう思われたことから名づけられたとか。



この毘沙門様は日本三大毘沙門天の一つだそうです、一説には運慶の作と伝えられている。ここのご住職は親切な人で、衝立に書かれていた書を褒めましたら、裏側に書かれていた書も衝立をよっこらしょと抱えて見せてくれましたし、いろんなパンフレットを沢山くれました。

## 3. 大豆戸山 正覚院:曹洞宗 大黒天



新横浜駅のすぐそばにあります。ご本堂は室町時代の天正元年に建立されました。この大黒天は開山和尚が秘蔵奉祀されたもので五寸ほどのもの。写真は撮っちゃだめですって言われちゃったぞ。

今の大黒天像は先代のご住職が庭の櫨の樹を刻み、二尺ほどのご本尊にしたもの。胎内に真像が収められているけど、現代のものだし素人さんのものだし、それほどありがたいは感じなかったよ。若い大黒さんと仲良く顔を寄せながら、御朱印を書いているお坊さんの姿はちょっと妬けたぞ。





#### 4. 補陀落山 西方寺:真言宗

恵比寿大神

山号が補陀落山とは凄すぎる。浦島太郎の補陀落伝説を思い浮かべてしまいます。いつかトマソン隊で補陀落伝説を取り上げたいです。自堕落伝説じゃないかって。べたなギャグですねえ。

安養院とも号するそうです。明月院吉祥菩薩の化身である恵比寿大神を祀っております。



このお寺さんには重文、国宝等の文化財が多く保管されているとのこと。

遠くからでも藁葺き屋根のお寺さんが望めます。お坊さんが御朱印を書いてくれているとき、写真を撮って良いですかと聞くと少しはにかんでいた。

ちょっと可愛い。昔、内田有紀がサルを着ぐるみを着て、はにかむのとは次元が違うけどね



本堂を出るときに「表の蠟梅を見てくださいね」って声を掛けてくれた。確かに透けるような黄色の梅が満開でした。

このお寺さんの参道にライ隊員の横顔みたいな石積が…。つい、鼻を触っちゃたよ。

写真だと少し判り辛かったですね。

可哀想でしたが、今回もお休みです。





## 5. 圓瀧山 興禅寺:天台宗

福祿寿神

天台宗第四代座主慈覚大師が関東に下向の際、自ら十一面観音と勝軍地蔵を刻んで安置したのが始まりと聞きます。小高い丘の上にあるお寺さんで高低差のある敷地を上手く利用していました。ここの広い庭に芭蕉翁の俳句の碑があります。また、山門にある七福神の彫刻は江戸時代からの由緒のある有名なものだそうです。



瓦に付いている寺紋について天台宗のご宗紋ですよと聞くと、若いお坊さんは怪訝そうな顔をしました。

いやあ、建築をちょっと齧ってましてね、この様な紋については興味があるんですよって吹いてきちゃいました。すいません。つい、見栄張っちゃいました。



## 6. 綱島山 東照寺:曹洞宗 布袋尊

電車で行くなら一番行き易いのがこのお寺さんだけど、車で行くと一番行き難いお寺さんがここ。何しろ一方通行と歩行者道路でアクセスしづらい。

ご本尊様は薬師如来が祀られています。今は改築のまっ最中だった。

階段の脇に安っぽい布袋様の石像があったので、まさかこれがそうではあるまいなって思ったよ。やはり本物は玄関を入ったところに鎮座していました。

でも、もう時間が大分押してきちゃったね。急がなくちゃ。





### 7. 清林山 金蔵寺:天台宗 寿老神

日吉の街中を走ること暫し、辺りにちらほら畑が混じってくる辺りにひととき広い寺院がありました。この辺りの道は農道だったのか狭い、狭い。ご門を入るといきなり五色の幕や極彩色の唐風の水天宮や灯籠が今までのお寺さんと一線を画します。平安時代から続く古刹だそうで、不動明王がご本尊様だそうです。

神仏が混在していますね。本地垂迹説を地で行っているようなお寺さんです。もうひとつ、この庭にある石灯籠ですが、隠れキリシタンのものではないかと噂があり、火袋の下にある棹の部分と通常のものと比べるとやや長く、ここに彫られている観世音菩薩がマリア様だそうです。う～ん。意味わかんねえ。

最近流行の「不ぞろいな七福神」、弁天様の衝撃的なカミングアウトがあったら嫌だなあ。



そして何か良からぬことを企んでいるような七福神の面々。  
弁天様が暗くなっちゃって見えにくかったね。